

第5回乙訓圏域障がい者自立支援協議会相談支援部会会議録

日時 平成28年1月22日（金）午前10時～12時

場所 乙訓保健所 講堂

出席者 相談支援部会委員 18人

乙訓障がい者基幹相談支援センター・キャンパス・乙訓ひまわり園・向日市社協障がい者地域生活支援センター・NPO法人こらぼねっと京都・乙訓ポニーの学校(2)・大山崎町社会福祉協議会(2)・乙訓若竹苑(代)・京都府立向日が丘支援学校・乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)・乙訓やよい会・乙訓保健所福祉室・向日市障がい者支援課・長岡京市障がい福祉課・大山崎町福祉課

運営委員 2人 事務局 2人

欠席 アンサンブル・アイリス・乙訓福祉会

配付資料・次第

- ・相談支援部会研修会最終確認資料
- ・障がい福祉計画（作業部会報告）
- ・事例学習にあたって
- ・事例学習資料

会議の公開・非公開 非公開

資料確認

1. 開会

事例学習をしますので、個人情報保護のため、非公開です。

（事務局）

・今日、欠席の連絡をいただいています。石田委員さん・橋本委員さん・長谷川委員さんの3名ですが急なお仕事のため欠席の連絡が入っています。乙訓若竹苑の小柳委員の代わりに岡西委員が代理出席です。よろしくお願ひします。今日は事例を扱うということで非公開のため傍聴はありませんのでご了解ください。運営委員の方は出席をさせていただいています。よろしくお願ひします。今日の資料ですがレジユメ等綴じたもの4枚と注意書きのものが1枚と事例の方の綴じたものをお配りしています。事例の方は今日の部会が終わりましたら回収をさせていただいて、次回以降またこれを使う時にお渡しをするということでそれぞれお名前と番号を表紙に書いていますが、これについてはまた次回も皆さん方それぞれお使いいただきますので書き込み等はしていただいても結構ですので、よろしくお願ひします。

（伊藤副部長）

・おはようございます。27年度第5回の相談支援部会を開催させていただきます。本日の皆さんでご相談いただく内容はレジユメにあります研修会について、それから障がい福祉計画についてのこと、そして事例学習です。事例学習については前回20分か30分で2～3ケース事例学習ができれば良いなあと考えていたかと思ひます。そういう流れで今日はいきますのでよろしくお願ひします。

2. 研修会について

（伊藤副部長）

・まずは参加者の状況を事務局の方からご説明をお願いします。

参加者の確認

（事務局）

・レジユメを捲っていただいた裏側1・2ページに昨日までの申し込みの方が書いてあります。今朝は申し込みがありませんでした。71名という人数で申し込みをいただいています。それぞれ参加枠・業務内容と申込書に書いていただいていた部分を書かせていただいています。事業所名についても基本的には書いていただいていたその通りを書かせて

いただいています。ご了解ください。この後ですが、申し込みがもう増えないだろうという見込みで午後のグループ分けについては事務局の方で案を作り、部会長・副部会長さんのご了解をいただいて当日までに準備をさせていただこうという風に思っています。去年は7名もしくは8名のグループだったので、およそ7名程度のグループで分けさせていただこうかなという風に思っていますが、またこれも部会長さん・副部会長さんの方で私の方にご指示ください。よろしく願います。以上です。

(伊藤副部会長)

・ありがとうございます。昨年も午後はグループワークで移動するグループワークをワールドカフェ方式というのでやりましたので、グループ分けの作業は事務局の方で大変お時間と頭を使ってしていただきました。なるべく同じ事業所の者が重ならないように、その場で顔の見える関係を作ろうというのもひとつ目標の中に、目的の中にありますので、その辺で言うとグループ分けが事業所さんからの参加人数とそれに伴ったグループ分けでなかなか事務局の方も大変な作業だったと思っています。今回も7人ぐらいの中で10グループぐらいに分けるということで、それでまたお願いしたいという風に思っております。今、見ていただいて名前が違っている等何かありますか？大丈夫ですか？

(高畑委員)

・言っていなかったのですが、午前中だけ参加をお願いします。

(伊藤副部会長)

・では、高畑委員も午前だけでよろしくお願いします。そうしたら、研修会も皆さんで作り上げないといけないのでお手伝いや役割について確認をさせていただきたいと思います。

当日の役割分担

(上田副部会長)

・1枚捲っていただいて4ページを見ていただきたいと思います。当日の簡単なタイムスケジュールと備品等の確認が書いてあります。一番上の参加人数は部会長含めて73名になります。タイムスケジュールですが一番上の集合時間のところは消したつもりだったのですが、すみません。去年は8時半となっていて1時間準備をして、9時半受付・スタートということだったのですが、去年に経験された方も含めて集合時間を再度、何時が良いかのご提案をいただければと思うのですが、8時半で間に合っていたのでしょうか？

(伊藤副部会長)

・会場の使用時間とも関わってくるかと思うのですが。

(部会長)

・会場の中央公民館は8時半には開いていないですよね？

(奥田委員)

・中央公民館は開いていないと思います。

(部会長)

・8時半で開けてもらった記憶がないので、9時まで外で待っていたように思います。早く準備をしたいので、いつも9時まで待機をしているような記憶があるのですが。でも、受付が9時半からなので8時半でなくて良いように思うのですが、椅子と机を自分で出さないといけなかったですか？

(事務局)

・椅子が並んでいるので、それを除けないといけません。

(部会長)

・シアター形式で現状、椅子が並んだ状態ですよ。

(事務局)

・椅子が200並んでいます。

(部会長)

・それを除けて、机を出すのですね。

(伊藤副部長)

・セットは午後のグループワークの形でいくのですか？今回は広いので、それしかないですよ。10グループの机の固まりをまず準備で作ります。そこから始めるので良いですね？

(部会長)

・はい。それか、午前中は教室形式にしておいて、お昼に入れ替えるかだと思います。

(伊藤副部長)

・お昼に入れ替えるのは大変だと思います。

(部会長)

・大変ですね。朝からやっておきましょう。だから、椅子を100程片付けて、机を出して、セッティングをするのに何分かかかるかなのですが。

(伊藤副部長)

・裏から台車で机を20脚持って来て、置いていって、その周りに椅子を7~8脚ずつ並べるという作業におそくなると思います。あとは事務局の方でお願いできるのであれば横断幕や垂れ幕等を演題の舞台に貼るとか。演題の方は午前中はシンポジウムなので進行の方の椅子と来てくださる講師の方の3つの椅子とマイクで良いのではないかという風に思っています。そんなに演題に花を置くとかいうようなことではないので何人かいれば役割分担をしてできそうな気がするので、事務局の方から使用をできる時間を確認していただいて、その5分前集合ぐらいにしましょうか？その連絡をまた流させていただくということでもよろしいでしょうか？まず受付・集合時間はそういう風にしましょう。

(部会長)

・人海戦術で一気にガツとやるしかないですよ。

(伊藤副部長)

・そうですね。

(河合委員)

・設定図を作っておいた方が良いんじゃないですか？舞台上とフロアの椅子・机の設定図を作っておいたら良いと思います。

(伊藤副部長)

・作っておきましょう。皆がそれを見ながらできるように。ひょっとしたら荷物置きも作らないといけないかもしれないので。

(河合委員)

・大勢の人にしてもらおうと思うのであれば必要かと思います。

(伊藤副部長)

・会場の設営図を用意します。

(上田副部長)

・集合時間はできるだけ早くにメールでお知らせするという形でよろしいですか？一応、9時半から受付という形になっています。それ以下のタイムスケジュールは先日、武田先生との打ち合わせの中で、こんな感じでどうかといった時間で書いています。受付の部分ですが3名ぐらいかなと思っているのですが、受付をしてくださるという方はおられますでしょうか？榎並委員・長濱委員・吉川委員ありがとうございます。受付の準備は渡す資料があると思うのですが、また武田先生にもお聞きしてですが準備させてもらいます。10時から開会なのですが、挨拶はどうでしょうか？

(部会長)

・去年はどこがしましたか？

(伊藤副部長)

・去年は会長を持ってくださっていた行政区の来てくださっている担当課長だったと思います。

(部会長)

・向日市だったので林課長さんでしたね。

(伊藤副部会長)

・今年度、もし、その形で言うなら大山崎町の来てくださっているか、その時に顔を出してくださるかという形になるかと思います。それはちょっと自立支援協議会を代表する立場でご挨拶をしていただける方をお願いするということでもよろしいですか？

(部会長)

・部長じゃなくて全然良いと思います。

(伊藤副部会長)

・今年度は大山崎町さんですので事務局や飯山運営委員・上田運営委員・黒崎委員と相談させていただいて、お願いするということをお願いします。

(上田副部会長)

・では、お願いするという形でよろしくをお願いします。もう少し挨拶していただいた後、次にシンポジウムなのですが司会は必要でしたか？

(部会長)

・総合司会は私がします。シンポジウムは武田先生にお任せします。そして、昼からの進行は武田先生と相談をしながらします。閉会の挨拶の方を乙障協の方でももらえればバランスが良いかなと思っています。栗森さんですよ？

(伊藤副部会長)

・乙障協さんの今年度の会長さんの方が参加予定をしてくださっていますので、事前にちょっと一言、GMにも声をかけていただいて、事前が無理であれば当日お願いするということ。カメラアの栗森さんです。

(上田副部会長)

・今言っていたように総合司会は伊藤部会長にさせていただいて前半は武田先生をお願いして、昼食があって、午後のグループワークなのですがそこも司会は部会長でよろしいですか？

(部会長)

・1日総合司会をしますので、内容の部分は武田先生をお願いしながらやります。

(上田副部会長)

・参加人数は今73名ということで午前だけの方もおられるので、午後の参加はまた数えないといけないのですが、昨年度はグループが10だったので、ここも10にしているのですがちょっと調整がまたあるかなと思うのですが。

(部会長)

・それはちょっと任せていただいて良いですか？一応締め切ってはいるのですが最終人数がわからないので、最終人数との調整で進め方もあるので、ちょっとそこは任せていただけたら嬉しいなと思います。大体、去年の雰囲気そのままやっていくという感じでどうでしょうか？

(上田副部会長)

・部会員さんが1グループを担当してもらう形になるかと思うのですが。そこで意見を出してもらうファシリテーターと言いますか、担当を持ってもらうことになると思うのですが。

(伊藤副部会長)

・去年、グループの進行役をやってくくださった方はここに何名おられますか？

(上田副部会長)

・心づもりをしていただくという感じでよろしいですか？

(伊藤副部会長)

・去年ちょっと困ったのが昼に打ち合わせをしようと言っていたのが、お昼はお昼で交流をしていたのでできませんでした。その時間にどこかでおおよその最低の進行の約束事ぐらいは確認したうえでやれたらなあと個人的には思ってい

ます。ですから、1日いてくださっている部会員さんはひょっとしたらそういう役もあたるかもしれないので上田副部会長が言ってくれたような心づもりを行政の委員さんも含めてちょっとお持ちいただけたら嬉しいかなという風には思っています。

(上田副部会長)

・続いて備品のところですが、これは私が必要なと思って書き出したまでなのですが、もうちょっとこれが必要な等があれば言っておいていただくと当日スムーズかと思うのですが、スクリーン・パソコン・プロジェクターというのはGMが用意してくださるのですか？

(伊藤副部会長)

・使う予定はあるのですか？

(部会長)

・たぶん、このメンバーだと武田先生、太田さん、濱村さんは使います。須河さんは使わないと思います。それぞれの講演や講義等の様子を見てるとそう思います。スクリーンは会場にありますよね？立てる式のものが会場にあったと思います。

(伊藤副部会長)

・公民館には置いてあります。

(部会長)

・プロジェクターは乙福にありますか？

(事務局)

・あります。

(部会長)

・なければうちが持っていても良いです。ありますね。パソコンはそれぞれ持ってくるかもしれませんが。

(事務局)

・一応用意しておきます。

(上田副部会長)

・マイク・スクリーンは会場にあるということです。机・椅子も会場です。名簿はGMが付けてくださっているのと、グループワークの入れ替え等を検討しないといけないのですが、それも含めてしていきます。あとは筆記用具類とかグループを担当してもらった方が記録できるようなメモも必要なと思っています。

(伊藤副部会長)

・それと今出ていた会場設営図も大きなものをひとつ持って行って、皆で手分けをする。

(上田副部会長)

・備品についてはその辺りで大丈夫でしょうか？最後の下の▼の5点ですが、もうちょっとまだ決まっていないところかなと思って書き出しているのですが、またグループ分けは少人数でしないかなと思っていて、それ以降についてもこちらの方で検討して、アンケート用紙も去年のものと見比べて作成したいかなと思っています。こちらサイドでさせてもらってもよろしいですかということで、ご了解いただけますでしょうか？

(部会長)

・アンケートに何かこれは聞いておいた方が良かなというような項目があれば言っておいただければと思います。

前回は参加された方の所属や職種等そういう参加者累計とあとは感想。それとフリー記載の感想でしたよね。「良かったところや参考になったところを書いてください」というのと「今後学びたいことを書いてください」というフリー記載の感想であり統計的に何かを出すものではなく、全体の印象をとって次の参考にしましょうというようなアンケートの内容だったのですが、それで良いのか、もうちょっと何か、よく色んな研修に行ったら5段階評価みたいな「よくわかった・参考になった」等項目分けをして評価を出すようなアンケートの方式もあるのですが、どうですか？それをあとに集計をして何に活用するのかということもあるのですが、去年はたぶん印象というところで取っていると思っている

のですが。

(伊藤副部長)

・大変回収率が良くて89人で55人も本当に一生懸命に書いてくださっていて、そのことがまた今回の協議会・部会としての研修に繋がっている基にもなっています。中でも現場の人の声も聞いてみたいとか、そんなことで今回現場で圏域は違うのですが、日々実際にやられている方をお呼びしてやるというところにつながったりだとか、とにかく色々な人と出会えて良かったというのが結構ありました。こういう書き方でも本当に皆さんよく書いてくださっていて、今回の研修にそれがつながっているなあと思っています。ちょっとグループワークの時間が慌ただしかったとか会場が狭かったという点については広いところも押さえたりしながらということもありました。ですから、こんな感じでも良いですか？

(上田副部長)

・では、研修会については以上です。

(河合委員)

・乙福のホームページを見たら一番新しい情報でこの研修会のお知らせが入っていたのですが研修会の内容やテーマは全然書いてなかったので、せめてテーマは載せておいてもらえた方が良いのではと思いました。

(事務局)

・了解しました。一般の方に向けた連絡ではなかったので参加される方が「いつ・どこで」というのがもう一度確認されるのに見られるだろうという想定で日時と場所を載せた形でした。載せるかどうかは初め迷ったところがあり、これを見て来たいと思われる方がおられるとお断りをしないといけないというのがあったので。テーマだけもう一度のせるようにさせていただきます。

(伊藤副部長)

・それでは研修会については当日は皆様、主催者の一員ということでその辺も含めて皆で作りに上げていくということで、また集合時間等はメール等でお知らせさせていただきますので、その時はよろしくお願いします。

3. 障がい福祉計画

別紙

(伊藤副部長)

・資料は5ページからになっています。河合委員の方からよろしくお願いします。

(河合委員)

・1月12日に作業部会を持ちました。部長・副部長・家族委員の3名とGMとで相談をしました。資料にまとめてもらったようになったのですが、目的としては「市町の障がい福祉計画における、サービス種別毎の実績や計画値が、圏域全体のニーズと合っているかまた、整備が必要な社会資源は何か等を検討するために、地域ニーズを把握するとともに、次期市町障がい福祉計画策定の際に反映させる協議会の意見としてまとめる。」ということです。

反映していただけるのかどうかは市町の方のことなので、表現としてこれでピッタリかどうかは微妙なところがあるかもしれませんが、方法として2番目に5つあげています。大まかにこうするというので、

(1) 乙訓二市一町を一つのかたまりとして捉え、乙訓圏域の現状を知る。 数値で見ていくということです。もう少し詳しく言うと2番目の、

(2) そのためサービス毎の支給決定量と実績量を各市町から情報提供を受ける(市町の意向により依頼文)。

もし市町の方で依頼文が必要であれば、それは作ってお渡しするという事です。

(3) その結果をもとに、支給量と実績数の差等の原因を分析する。

(4) 分析結果をもとに、地域のニーズとの整合性等をまとめるとともに、数値から相談支援との関連、障がい種別におけるサービス提供量をどのように理解すればいいか等検討する。また、不明な点も明らかにする。

この4番目は実際にやった分析等が出てきた後にどういう方向性になっていくかということも含めて書いてありますが、

これを分析したことによって相談支援のあり方もまた関連が出てくるだろうし、障がい種別、特に精神障がいの方のサービスが実際はあまりないということの意味から、その辺りをどう考えるかというようなこともこの中に意味が含まれています。明らかになったこと・明らかにならなかったことというものはっきりさせていくということです。

(5) 市町からの意見聴取の際、検討内容を伝える。これは後で副部長の方から補足をお願いしたいと思います。一応、一参考としてあげてあるのは市町が協議会の意見を聞くということがこの法律に規定されているのでそこを参考として見てもらうために、ここにあげてあります。障害者総合福祉法の第88条ですが、第5章 障害福祉計画のところにあたりまして、市町村障害福祉計画のことで書いてある条文の8つ目、「市町村は、第八十九条の三第一項に規定する協議会（以下この項及び第八十九条第六項において「協議会」という）を設置したときは、市町村障害福祉計画を定め、又は変更しようとする場合において、あらかじめ協議会の意見を聴くよう努めなければならない。」という条文があって、これを根拠にしているところです。

捲っていただいて3つ目にスケジュールが書いてあります。27年度内、今年度内に市町に対して情報提供を依頼して、その時に表を作っております。別表が一番最後のページにあります。それを見てもらうと2市1町別に、27年4月から今年の3月までの1年間の分を月別に総支給量と利用実績の数値を教えてくださいということです。今印刷してあるのは「3行動援護」となっていますが、もうひとつ戻っていただいて、「サービス種別一覧」というのがありますが、その左端に縦に1列に1～27まで数字が並んでいます。各サービス、それぞれ毎に最後のページの表のように総支給量と利用実績を月別に出していただきたいということです。それと右端にありますように事業数についても利用されている事業数、月によって違うことがあります。全部の事業数、1回でも利用したことがあれば1つと数えて、それも圏域内の事業数と圏域外の事業数に分けて出していただきたいなあということでこのような表にしてありますが、これに基づいて市町に情報提供を依頼するという風に考えました。

27年度のこの部会でのこの扱いとしては27年度の活動報告書を出しますがそのところに「障害福祉計画についての検証を継続する」ということを明記しておくということでどうかということです。

実際、市町から提供を受けるのは最後の28年の3月の数字が出てこないという数字が揃わないので、3月の数字が出てくるのが5月末ぐらいということになると思うので、実際の数値をいただいて数値を確認して分析していくというのは28年度の活動でやれば良いのではということです。障がい福祉計画が今現在27年から29年度の計画が策定されているので、次回の計画策定が29年度内に各市町で行われると思いますから、それに間に合うようにやれば良いのではということで、こういうスケジュールになっています。なので28年度末にまとめたら、29年度策定のところに十分反映していただけるという形になるかなということです。こういうことを作業部会で話し合いました。あと、補足等をお願いします。

(伊藤副部長)

・ありがとうございます。方法の5番目については根拠となる法のところを参考までに載せて、河合委員からもご説明していただきました。「努めなければならない」ということで読み方から言うと行政的な努力義務でもあるので、その辺は絶対にこれを参考にしなさいという協議会としてのこちら側から無理無理ということではなくて、行政も含めた協議会の構成なので、できればその努力のところは前向きにそういう作業も一緒にしていただいているので、ぜひ聞いていただきたいという願いも込めて、このような書き方にさせていただいていますし、スケジュールの方でも意見徴収があれば伝えるというような書き方をしていますが、たぶん大変な作業になると思うので、この後、行政で担当して下さっている方にこのお願いの表とか数字の出し方がどれぐらい大変なことなのかというお話もお伺いできたらと思うのですが、まずそれを以て、現状を知って、そこからその関係、社会資源のこと、利用者のニーズ等そういったところを考えながら、この圏域で必要なサービス、足りているところ、不十分どころ、そういったことを一緒に考えていこうというところが元々なので書き方としてはそういう書き方をしていますが、ぜひ一緒にやれば良いなあということも含めてです。そのうえで、この表を見て質問なり、2市1町の担当課から出て下さっている部会員さんの方からは何かご意見等ありませんか。

(山中委員)

・読んでいて思ったのですが、「ニーズとの整合性等を分析するために」という目的ということで実際の支給量ではなくて実績数を出すというところはわかるのですが、今、支給量は実際に利用できるかどうかというのを相談員さんに調整していただいて出しているので支給量=ニーズではないと思っています。なので、実際のニーズの出し方というのは支給量ではないのではないかなと思うのですが。

(河合委員)

・そうですね。だから、それは例えば相談支援の場で受けている時間等も加味して分析していくことになると思います。それと支給量と実績の差というのが色々な意味があると思います。今、山中委員もおっしゃったように使えなかった理由が色々あったりだとか、何しろ色々な意味を含んでいるので、それを分析していきたいということであって、別に何も差があったりしたらそもそもこれが足りないとか言おうとしているわけでは全然ないです。その差にどういう意味があるのかを読み込んでいく作業をしていければ良いのではという風に考えました。

(高畑委員)

・今後、この中で論議する部分で、この時の作業部会で話が出ていましたが支給決定と実施量というのはイコールの場合が多いというのがあって、差が出てこないという部分もあると思います。現実に移動支援とかだったら、この計画ではない人が使っている等そういう問題もあるというのは承知の上で一定、ある支給量から引いたり、現実はどうなのかということと、本当はイコール0であっても、本当に0なのかということのをここで論議できたら良いのになあということも作業部会の中では話し合われたと思います。結局、ニーズがどうやって出るのかというのは確かに難しい問題です。そのニーズがどうやって出るかですが、その下地となる総支給量がどれだけあって、どれだけ利用実績があるのかということをもまず知るということで第一段階を進めて、本当のニーズというのがどこにあるのかということのを今後、相談支援の中で話し合っていくというので良いのではないかなというのが作業部会の中の話だったと思います。

(伊藤副部長)

・他にご意見・ご質問等何かございますか？

(鹿島運営委員)

・このように計画の検証をいただいて、ご提言等いただけるのは凄く有り難く思っています。88条の努力義務ということで「意見を聴くよう努めなければならない」ということで、目的のところで反映させるというのは微妙だと思っていて、確かにどのようにまとめて、どのように反映させるか、とてもわかりにくいので参考にするようなものという風な位置付けにさせていただいたら良いのではないかなと思いました。あと、支給決定量と支給量の関係で今やり取りがあったのですが計画を計上するのであれば一番良いのはやはり計画の数値と実績値だとは思いますが。そのうえで支給量ということであれば、この表を見ていて毎月のものが本当に出るのかなと思いました。最終のものとか年度末のものなら出ると思うのですが、毎月・毎月となるとどうなのだろうかと疑問に思いました。あと単位を明確にしないとわかりにくいので「時間」なのか「人」なのかその辺りを明確にして、時間にする膨大な量になって検証の仕様がなくなってくるので「人」ぐらいが良いのではと思いました。依頼文を出した方が良いのかどうかみたいなのが書いてあったかと思うのですが、依頼文は市町の方にいただいた方が作業がしやすいので依頼文と表を、単位を明確にした上で出してもらえると作りやすくて、後で検証しやすいように思いました。

(飯山運営委員)

・大山崎町の方ですが今回の計画の方で大山崎町の方でしたら24年・25年なのですが見込み量というのは支給決定量です。それと実績値というところで委員会でも話がありましたが、そこで達成率が100%を超えている部分、見込みを超えて供給できた部分もあれば、具体的にはショートステイ等は低い数字で課題としては、こちらは掴んでいる状況はあります。只今、お話を聞いていたら、今後は計画相談が行き届いてきて支給量とサービスがイコールみたいなことが出てきたら、今後の計画では逆にそこが掘り起こせないかもしれないので、今逆に大山崎町でいえば24年・25年のところで不足しているサービスというのを町としては捉えているつもりなので、その辺を参考に不足している資源なり等、それに対して相談支援員さんがどう苦労されて調整されて、課題をもう少し掘り起こしていただいても良いのかなと思ったりもしました。あと、具体的には27年からの分で毎月の支給決定数を拾うのが結構事務的には大変です。

機械的にそういうのがパッと出るシステムではないので、手で拾うことになるので、それは参考にちょっと言っておきます。すみません。

(部会長)

・私の方からですが目的のところの最後の「計画策定の際に反映させる協議会の意見としてまとめる。」というところのこの「反映させる」が、「反映させる」の主語が「させる」なのか「反映させる」かの手法の違いだと思うので、ここは鹿島運営委員がおっしゃったみたいに「参考とできる」ぐらいにしておきますか？「参考にさせていただく」、「反映させていただく」、何が良いですか？どれぐらいの強さで強調しますか？依頼文を出す時にやはり文言が明確でないといけないと思うので「障がい福祉計画の策定の際に反映させていただく」にするか「反映していただく」にするか「参考にする」にするか、何が綺麗に思いが伝わると思えますか？

(河合委員)

・「参考となる」でどうですか？こちらは「参考となる」と思っているけれども、それを「参考とする」かどうかは市町の考え次第なので。

(部会長)

・一文が点打ばかりで長いので、2つぐらいに文章が分けられたらもっと文章がすっきりするかもしれません。「検討し把握する」、「また次期市町障がい福祉計画策定の際に参考となる協議会の意見としてまとめる。」でどうですか？

(河合委員)

・「参考にさせていただく」にさせていただいたらどうですか？

(部会長)

・「参考にさせていただく」、どうですか？言葉の強さというか願いの空気感というか、そういうことがここに伝わると思うので「参考にさせていただく」はどうですか？

(河合委員)

・「参考にさせていただくための」はどうですか？

(部会長)

・私の意見ですが「地域ニーズを把握する」というところはこれは「協議会が把握する」ということでもあるので「把握する」で一旦切って、「また次期市町障がい福祉計画策定の際に参考にさせていただくための協議会の意見としてまとめる。」という形で大丈夫ですか？依頼文として出すための文章でもあり、今年度の活動報告の中に載せる文章でもあるので文言は凄く重要だと思います。そんな感じ、鹿島運営委員大丈夫ですか？

(鹿島委員)

・はい。

(部会長)

・もうひとつ、単位はたぶんサービスの種類によって変わると思います。なので「人」で出した方が良いサービスと居宅系は「時間」で出さないと「人」で出しても意味がないと思うので居宅系は「時間」になってくると思うので、そこはもう一回、作業チームの方でここを明確にして、ご依頼する時には単位を明確にしてご依頼するということにしませんか？総支給量は作業部会の方で考えていたのは受給者証に記載されている支給量なので、例えば行動援護は「時間」ですが生活介護だと通年で出るので毎月同じ数、「人」で出ますよね？生活介護をイメージすると「日数」ではなくて何で出していますか？「日数」ですか？

(伊藤副部会長)

・「日数」です。「月・何日」という形です。

(村山委員)

・「月のマイナス8」みたいな書きようになっています。

(部会長)

・わかりました。土・日を引くからですね。だから「月」の例えば行動援護で考えると、ここを「人」にするのか「日」

にするのかによって数字の出き方が変わることになります。生活介護の場合は「日数」ですよね。受給者証の支給決定量が「日数」なので「日数」で出てこない「人」ではどう出すのですか？

(伊藤副部長)

・「人」では出ないので「人」はないです。

(部長)

・ないですよね。受給者証に記載されている数という風に単位はイメージしています。単位もそうなるのではないですか？

(鹿島運営委員)

・「人日」を使っています。ひと月辺り何人日。10人が10日使ったら100人日という風に計画ではやっています。

(部長)

・計画はそうですね。受給者証は「Aさん」についてのだから・・・。

(河合委員)

・マイナス8日。各月の日数引く8日。

(部長)

・席はあるけれども、支給は出ているけれども実際にはお休みをいっぱいしているという人もおられるので、その差異等が出てくるかと思えます。利用実績は国保連請求の数字で拾ってもらえば良いかと思えます。そのように考えています。確かに大山崎町さんが出している数字も参考になるのですが、この話は2市1町全体でその数字が欲しいなというところなので、決して大山崎町さんが出しておられるものを参考にしていないわけではないのだけれど2市1町で出したいと思っての話です。数字を拾うのは凄く大変な作業ではあるのですが、そのところは我々委託相談支援事業所も実績を書いたり等色んな場面でたくさん数字をあげてねと言われる場面はいっぱいあるのですが、その数字を拾うのも作業の一部・仕事の一部です。なので申し訳ないのですが、行政さんもお協力をいただきたいなあという風に思っています。ただ、凄く拾うことに凄く無理があるような内容があれば、たぶんそれはひとつひとつの提供サービスによって変わってくると思うので、そこはちょっと微調整をかけていかないといけないかなと思っています。何が何でも言っているのではなくて、この数字は受給者証のこの数字・この単位じゃない方が良いのではないかなというのがあればひとつひとつについて微調整をかけた方が良いのではと思うのですが、如何でしょうか。やってみないとわからないというのは凄くあるのですが。

(伊藤副部長)

・その辺は同じ相談支援部会の部員さんとして出てきてくださっている部員さんと直接お仕事に携わってくださっている方・部署で一番何が出しやすいのか、何の単位が出しやすいのか、どう書いてほしいしたら一番わかりやすいのかというのはご相談を一緒にしながら、一緒に取り組んでいけたら一番良いなあという風には作業部会でもそういう話はしてきたようなところもあるので、その辺は皆でこれに取り組んでいこうというのは運営委員会でもご了解を得て、要は実態と本当に必要なところが何なのか、乙訓圏域で障がいのある方が豊かに暮らせる、そのところは何が考えられるかというところが元々きっかけになっているところなので、皆で一緒に一年間かけて検証や今後何を調べたら良いのかも含めてですが、来年度に当然バトンタッチしないといけないところもあるのですが、皆で知恵と力を合わせながらやっていたら良いかなと思います。そのことが次期の障がい福祉計画の中にちょっとでも参考になるようなものが、参考にさせていただけるようなものになるなら何よりだなあと思うので、またその辺は具体的に相談をさせてもらいながら作っていただければなあという風に思っています。

(部長)

・先程、山中委員がおっしゃってくださったみたいにサービス等利用計画の中に書いてある時間数は計画を立てる時にドンピシャの時間数ではなくて、例えばガイドヘルプ等であればその行動の中で少し余裕を持たせた時間数を計算したりして、色んな計算の仕方を出しているのだと思います。実際にはそんなに使えていない場面があったりだともあるかもしれません。色んな数字が出てくると思います。高畑委員がおっしゃってくださったみたいにイコールの数字

があるかもしれない。だけど、イコールの数字は本当にニーズを満たしているからニーズなのかということも、もしかしたらそれだけしかないからそれだけしか計画のところで反映させていないということもあるかもしれないですね。だから、どんな数字が出てきて、それをどう読み込むかということに問題が見えてくる、課題が見えてくるので読み込む作業が凄く重要です。たぶん、それぞれのサービスの特徴も出てくると思うので、そういうことが皆で共有できる基になれば良いかなあというところの提案です。色々細かいところは微調整が必要です。例えば、請求を間違っただけで過誤調整したその数字はどちらに反映させるのか等の細かいところはいっぱいあるのですが、何を出したいかと言ったら圏域全体の状況の印象というか全体像を掴みたいということなので、あまり細かいところにとらわれて作業を進めないでいくよりは、まずはぱくっとで良いので作業をやっていきましょうという風に提案をしています。実際、やりかけてみたら「これはどうする？」というのは出てくるので、そこを一緒に検証したり話し合うことで、皆でこの地域のサービスの支給や提供がどうなっているかということを具体的に体感していくみたいな作業ができれば良いなと思っています。とても大変だとは思いますがご協力いただきたいと思っています。

(伊藤副部長)

・依頼状はもう一度、部長・副部長の方でGMや担当行政等と相談しながら早いうちに出ささせていただくということで進めていきますので、また皆でお話をしながら進めていければ良いなと思います。まずは依頼状を出すところから進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

(河合委員)

・今年度内にもう一度作業部会をして詰めたりしますか？

(部長)

・そうですね。今の単位をどうするかということと作業の順番等、もう一回作業部会を持ちましょう。

(伊藤副部長)

・そうしましょう。日程調整はまた、させていただきます。

4. 事例学習について

(伊藤副部長)

・事例学習に入りたいと思います。1ケース20分～30分ぐらいで2～3ケースできれば良いなというのが前回の確認でした。その上で改めて再確認ですが1枚もので「事例学習にあたって」ということで、皆で確認していきたいことを書かせていただいています。前回部会で、部長から提供のあった「進め方」をもとに提供事例を通して、最終的には「地域の課題を明らかにしていく」ことを目的にやっていければということになっています。そのことを前提に資料にある「7つの法則」を心にとめて皆で学び合ったらどうかなという風に思っています。

その「7つの法則」というのは

1. 秘密を守る
2. 気づきをもたらす。
3. 価値観や感情を押しつけない。
4. 個別化する。
5. あるがままを受けとめる。
6. 決して裁かない。
7. 自己決定

というものでした。

中に、実際の具体的な事例を、複数の支援者や関係者で話し合うことで、対象者へのより良い支援の方向性や方法につなげることができる。また、そのプロセスが他の利用者への支援につながったり、地域課題の抽出や解決につながる。参加者（つまり、ここの場のみんな）にとっては、自分の事例として考え、意見を出し合い、また意見を聞くことで、知識や情報を得たり、気づきを得ることで、今後の支援のスキルが向上する。

というようなところを狙い、皆の中での約束事として進めていければと思います。進め方については部長の方からお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(部長)

・まず、個人情報や扱う事例研修の会議録というのはメール等で回すのは怖いように思ったのですが、録音をしておいてケースの中身のことは抜いたところだけだと良いのですが、ややこしくはありませんか？

(事務局)

・大丈夫です。そのようにさせていただいたので、よろしいですか？会議録をメールで送らせていただく分については今からの事例のところはありません。会議録自体については作っておいてみたい方は例えば事務局に見に来られるということでしたら作ります。事例学習なのでなくても良いということでしたら作りません。どう致しましょうか？

(河合委員)

・私は作っておいてもらったら、何かの時にどうだったかなと、会議録があれば見直せるので、実際使わないかもしれませんが作っておいてもらえたらと思います。

(事務局)

・事務局の方では作っておきますので、もし、それをご覧になりたいければまたおっしゃってください。

(伊藤副部長)

・ありがとうございます。どのペースでこの事例学習をやっているかというのちょっと曖昧なままというか、とにかくこれまで課題だった事例学習をまずは始めようというところできているので、これは皆そのまま持ち回りでその都度手にしながら、また一緒に色々なケースを学んでいきたいと思います。前は相談を担当している者は1ケースあげていきましょうということだったので、遅くなっても良いので、追加でどんどん入れるので、またそれは事務局の方に届けてください。

5. その他

相談支援事業所から

(伊藤副部長)

・事業所の紹介等を話そうかということだったのですが、今日は時間の方がなくなりましたので今日はこれで終わりたいと思います。何か言っておきたいことはありますか？作業部会についてはまた日程を調整します。

(事務局)

・次回の部会の日程と作業部会のおよその日程を決めていただければと思います。

(伊藤副部長)

・作業部会は2月中に一度しないといけないと思っています。次回の部会は3月の1週目ぐらいに予定をしていたかと思っています。運営委員会に提出するまとめの論議をしないといけない時期になっていますので、まずはその辺りで如何ですか？4日の午前は大丈夫ですか？では、第6回部会は3月4日10時からで場所の方は確認してお知らせさせていただきます。作業部会はまとめの報告案を作らないといけないので、それと福祉計画の詰めを含めて2月中旬以降ぐらいで予定したいと思います。では2月16日の午後、福祉計画のこととまとめの方を作業できればと思います。時間は13時半からということで場所はまたご連絡させていただきます。お時間のある方は一緒に論議していただくということで、よろしくお願ひします。本日の部会はこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

6. 次回部会の開催日程について

平成28年 3月 4日 (金) 10時～